



第57号
平成24年 2月29日

発行所
宮城県伊具高等学校
同窓会
責任者 鈴木英晴
印刷所
佐藤印刷株式会社
伊具郡丸森町大内字石神57

百周年に向けて



同窓会会長

佐藤 吉市

会員の皆様には、平成24年の新年を穏やかに迎えられたことをお喜び申し上げますと共に、お元気で過ごすごしのことと存じます。

忘れる事の出来ない3・11東日本大震災も早1年を迎えようとしております。1千年に一度と言われました大津波では、亡くなった方々、まだ不明の方を入れますと3万人弱の多くの方が犠牲にあわれ、多くの家屋・工場・漁船が破壊あるいは喪失してしまいました。改めてご冥福とお悔やみを心から申し上げます。国でも本年を復興元年として、早期の復興をめざして始まろうとしています。特に、宮城県・福島県・岩手県には全国から多くの義援金・寄付金、そして多くの方々のボランティア活動で明るさが見えている事は大変素晴らしい事と思えます。

改めて日本人のすばらしさ、絆を見る思いであります。この未曾有の災害経験を忘れずに後世に伝え、二度と多くの犠牲者を出さないよう、教訓としていくべきと感じております。

震災後、大津波による東京電力福島原子力発電所事故により、放射能による汚染が追い打ちをかけ、母校のある丸森町も大変深刻な状況・状態であり、町民も大変不安な日々を過ごしており、町でも県・国に強く、より早く安心・安全な町に復帰できるように要望をし、行動に入っておりますが、まだまだであります。私もその一役を担っており、全力で対処してまいります。

伊具高校も、平成22年11月11日に90周年を数え、盛大に式典を終えております。23年8月、本部総会の席上で、10年間同窓会長として尽力された佐藤一馬

会長が勇退するという挨拶があり、副会長であります大槻英雄先生・小野正彦先生・牛澤榮様からも退任の申し出がありました。佐藤一馬会長の退任挨拶の中で、今後は百周年を目標にして頑張りたいと言われております。改めて、会長・副会長の先輩・諸先生方には心から感謝と御礼を申し上げます。「ありがとうございます。」

本部役員も若返りを目的に人選されました。角田市・丸森町の卒業生を中心に進めたようです。私も含めて役員の卒業年度は昭和40年代が大部分です。農業科・商業科・生活科で、1学年が4クラス、人数は160人くらいであり、3学年で5百人くらいの学校で大変賑やかに感じ、当時を思い出すのは、私だけではないと思います。

日本も右肩上がりの急成長期に入り始まり、丸森にも会社の進出が始まった時代であり、アルプス電気丸森工場もその一つでありました。就職は県外・関東方面が大部分であったようです。集団バスで行く友を見送った事が思い出されます。その友も10年位過ぎた頃、集団バスは上野公園に集合し、そこに各会社の上司がそれぞれの友を迎えに来て、それぞれに散って行き、最後まで残った友は大変寂しい思いをしたと、笑って酒をかわしながら語ってくれました。私は農業科卒業でありました。

が、減反政策が始まったのが昭和43年頃、農業の曲がり角が来たと言われた年でありました。将来の農業を夢見ての卒業でありましたが、専業農家になるのを諦め、兼業農家に転じたのも私だけではない時代になった時でもありません。

会長に就任して改めて事の重大さと責任の重さを痛感しております。宮城県伊具高等学校70年史「風雪に耐えて七十年」、90年史「新たな世紀を迎えて」を読む機会を得ました。卒業生は1万3千余名にもなり、多くの先輩同窓生の方々が寄稿しておられ、多くの思い出が綴っております。楽しかった事、友の事、クラブ活動の事と色々書かれており、皆様の母校を思う気持ちを感じました。次第であります。学校の沿革を見れば、大正9年に宮城県伊具農蚕学校が設立、その後多くの先人たちの協力のもと、名称も「伊具高等学校」と変わり、また、学科の改称・変更、分校の統廃合などの変遷が繰り返されております。しかしながら、変わりのないのが校訓であります。「質実剛健」「穩健着実」は、延々と後輩たちに受け継がれております。入学・卒業しても校訓は頭の片隅に残っておりますが、60年還暦を迎える今、校訓の重さを感じ、生活の糧として忘れてならないと思っております。

平成11年には、地域産業の特

性と生徒のニーズに対応すべく、新たに総合学科を導入し、現在に至っております。しかし、少子化の波は伊具高校にも及び、1学年4クラスから3クラスに減になったのも時代の変化を感じざるを得ません。

3月には、また卒業生が新たに会員になります。東日本震災で多くの会社が被害に遭い、母校の卒業生の就職状況が心配でありましたので、菊地校長先生にお尋ねしたところ、総合学科の強みで大部分が決定しているというお話をいただきました。伊具高校の信頼の大きさを感じ、同窓会会員皆様のご努力と感謝しております。今後とも、同窓会皆様の親睦・友好、そして学校との連携を密に努めながら、伊具高校の発展に寄与できるように、役員一同頑張ってまいりますので、会員皆様のご協力・ご支援を心からお願ひし、年頭の挨拶いたします。

(農業20回・大内支部)





創立百周年に向けて 確かな歩みを

学校長 菊地 恵一

同窓生の皆様には、日頃より母校の後輩生徒、教職員、並びに教育活動全般にわたり、深いご理解と多大なるご尽力を賜り厚く御礼を申し上げます。

本校は昨年度90周年を迎えるなど歴史と伝統のある学校です。卒業生も1万3千名を超え、地域社会はもとより、各界で活躍されており、同窓生の皆様は活躍は学校にとつては誇りであり、生徒にとつては励みとなるものです。このような学校に赴任できましたことを、誠に光榮に存じております。

さて、平成23年3月11日の東日本大震災は各地に未曾有の被害をもたらしました。あれから1年近く経ち、復興・復旧作業も少しずつ行われておりますが、元の姿になるのはいつになるのか皆目見当がつかない状況です。また、原発事故による放射能被害や風評被害は続いており、未だ解決の目処がたっておりません。1日も早い復興を願うとともに、被災した皆様には心からお見舞いを申し上げます。

の被害により県内の公立高校が入学式や始業式を2週間繰り下げて行うなど、多方面にわたり影響が出ておりました。しかし、生徒たちは皆様の暖かいご支援によりなんとか凌ぎつつ、日を追うことに生き生きとした活動に励むことができるようになりました。その一端ではあります。本紙面を借りてご紹介いたします。

夏期休業前の期間では、農業クラブが県大会において、意見発表やスローガン作品の部で、優秀賞や特選を受賞、吹奏楽が県予選で銅賞を受賞、また、仙南総体等では卓球やバドミントン、弓道が活躍いたしました。更に、甲子園県予選では野球部が1回戦を突破し読売新聞のコラムに掲載され反響を呼びました。夏期休業後は、書道部が全国学生書道展において会長賞を受賞、また、写真部が全国高校文化祭写真部門で文化連盟賞を受賞する等、全国に名をはせました。そして記憶に新しいところでは、県高文連生徒活動発表会工業専門部門において、電気機械部が優秀賞を受賞いたしました。今年度は文化面での活躍が目覚ましく、来年度は運動部の活躍も待たれるところであります。

ます。また、記録に現れないところでは、被災地に赴き、ボランティアに励む生徒もおり、震災下の状況での生徒の数々の活躍には心から嬉しく思うと共に、誇らしくさえ感じるものがあります。私たち教職員は生徒たちが普段の環境で教育活動ができることを目指し気概を持って指導に当たってまいりました。同窓生の皆様にはこれからも一層のご支援・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。今年度のその他の諸活動については別添の記載の通りでありますのでご覧いただきたいと存じます。

進路状況につきましては、本校は「進路保証100%」を掲げて全校挙げて取り組みだして早5年になります。経済的な不況の中、先の見えない社会情勢ではあります。本校は年を追うごとに成果を上げながら地域の皆様からは評価をいただいているところであります。昨年度も厳しい社会状況下で進路決定率は最終的には99%に至るまでの成果をあげました。今年度は震災の影響で、昨年度とは比較にならない厳しい状況であります。昨年に負けず劣らず大いなる健闘を見せたいと思っておりますので、変わらぬ暖かいご支援をお願いいたします。

本校は、産業構造の変革に伴い、平成11年学科改変を行い総合学科として歩みだしました。社会の変化に柔軟に対応できる能力を育て、望ましい社会人・産業人としての人格形成や自己啓発を促し、視野の広い人間性を豊かな産業人の育成を図る教育を推し進めているところであります。

これからの社会も、全県一区制などをはじめとする高校入試改革や教育環境の変化、そして、少子化に伴う学校の統廃合問題など、厳しい社会情勢が続きますが、本校創立百周年に向けて、「稳健着実」の校訓が示す如く、先を見据えた本校の教育の在り方を考えて、一歩ずつ確実に歩んでゆきたいと思っております。地域社会と連携し、地域社会に根づいた学校づくり、人づくりを進める所存でありますので、同窓生の皆様におかれましては、母校を温かく見守りつつ、更なるご支援をよろしくお願い申し上げます。



平成23年度総会報告 八月七日(日)午後二時 (評議員会午後一時)

- ◎協議事項
 - 一 平成22年度事業
 - 二 平成23年度事業計画
 - 三 役員改選について

佐藤一馬会長より退任の申し出があり、役員選考委員会が開かれ、百周年に向けて次の方々が選出・承認されました。(4・5ページに関連記事)

- 会長 佐藤 吉市(農業20)
- 副会長 小形とき子(生活20)
- 菊地 清明(農業21)
- 湯村 勇(農業26)
- 監事 玉手 安博(農業18)
- 池田 幹夫(農業19)
- 林 力男(農業25)

四 創立90周年記念事業について (報告)

※ 出席者数 31名

◎懇親会
町内白木屋食堂 午後3時

猛暑の中、20名の方々にご参加いただき、勇退される佐藤会長・大槻副会長・小野副会長を囲んで、これまでのご慰労を兼ねて、和やかに懇親を深めました。
(事務局 鈴木英晴)

母校だより

震災と農業クラブ活動

農業クラブ会長

3年 山家 佳己

震災時、伊具高校農学系列では4月22日から大苗販売会を予定していましたが、準備の真最中でしたが、それも中断するしかありませんでした。私は学校に赴き顧問の津藤先生と連絡を取り、農場や植物の無事を確認し、休校中でしたがクラブ員に呼びかけて、有志での実習を再開しました。そんな時に津藤先生を介して熊本県の八代農業高校など多くの学校から激励のメールをいただき、本当に勇気づけられ、宮城の状況を伝え続けることで交流が始まりました。何度かメールでやり取りをしていく際に感じたのは、一面識もなかった私たちをすごく心配してくれているということでした。また、関係各位のご協力で、実際に八代農業高校と被災地での共同活動が実現し、農高生同士の交流と意見交換が出来たのはとても良かったです。思っていたより被災者の方々が明るく、逆にながら私たちが元気づけられ、思わず涙ぐんでしまうこともあり



ました。また、土に触れ合えるありがたみも改めて感じました。この経験を通して改めて生命の尊さを感じ、これからの復興地宮城を支える仲間を増やして行きたいと考えました。復興には長い期間がかかるので、これらを一度で終わらないように続けていってもらいたいと思います。そして自分たちが復興の原動力になり中心を担っていきたいと思えます。

仙南新人準優勝

女子バレー部主将

1年 菅野 瑞紀

私たち女子バレーボール部は、顧問の佐藤実輝先生のご指導の下、2年生2名、1年生7名の計9名で活動しています。人数が少なく、練習メニューが限られることもあり、部員全員で協力しながら、日々の練習に励んでいます。

私たちは、昨年の12月17・18日に開催された仙南新人大会で、第2位という結果を残すことができました。1日目の試合は、3つのブロックに分かれて、そのブロックの中から代表1チームを出すという試合形式でした。そこで私たちは、宮城農業高校と名取北高校のブロックに入り、計3チームで試合を行いました。初戦からとてもレベルの高いチームと対戦すると聞き、私たちは毎日の練習で様々な対策を取り、初戦を突破し、1位で準決勝に進むことができました。その結果、宮城農業高校に2対1、名取北高校に2対1で、接戦になりながらもねばりのある良い試合をし、無事1位通過することができました。2日目



は、3つのブロックの1位のチームと対戦するという試合形式でした

が、その中でもシード権があったりと複雑な組み合わせで、各チームとも戸惑いがあつたように感じました。準決勝では、白石高校と対戦しました。白石高校とは何度か試合をしたこともあり、部員同士お互いに声を掛け合いながらプレーし、2対0で勝利し、決勝へ進むことができました。決勝戦では大河原商業高校と対戦することになりました。大河原商業高校は攻撃の幅が広く、プレーがとても安定しているチームです。練習試合をする機会もありましたが、勝利したことがなく、今回はチャレンジであり、リベンジをかけた試合でした。結果はねばつて最後までボールを追いかけたものの、2対0で惜しくも敗れてしまい、第2位となりました。自分たちのミスが多く目立つ悔しい結果でした。

生徒の活躍

- 仙南総合体育大会
 - 〔バドミントン女子〕
 - シングルス 第2位 穴戸 京香
 - ダブルス 第2位 穴戸 京香 佐藤 希咲
 - 〔男子〕
 - 個人 第2位 小形 和史
 - 〔卓球女子〕
 - ダブルス 第3位 齋藤 愛未 笹原 美穂
 - 県学校農業クラブ連盟
 - 〔意見発表大会〕
 - 優秀賞 山家 佳己
 - 特選 山家 佳己
 - 〔活動紹介発表〕
 - 奨励賞 山家 佳己
 - 〔家畜審査技術競技会〕
 - 肉用牛の部
 - 優秀賞 佐々木 大樹 玉手 伸也 荒 勇弥
 - 吹奏楽コンクール名取・仙南地区大会
 - 高等学校小編成の部 銅賞
 - 全国学生書道展
 - 全日本学校書道連盟会長賞 菊田 美樹
 - 全日本学校書道連盟副会長賞 阿部 春菜
 - サンドアート2011 in みたね
 - 第一回砂像甲子園大会 準優勝
 - 全国高等学校総合文化祭
 - 福島大会写真部門 文化連盟賞 虹川 和宗 秀作 菊田 美樹
 - 毎日書道県高校生選抜書展

- 仙南新人大会
 - 〔バレーボール女子〕
 - 第2位
 - 〔男子〕
 - 個人 第6位 池田 光太
 - ロケットカップ 高校女子バレーボール大会 第4位

- 生徒活動成果発表会
 - 展示発表の部
 - 優秀賞 電気機械部
 - 県高校写真展
 - 銀賞 一條 恵里
 - ※全国高等学校文化祭富山大会
 - 出品決定
 - 高校生ものづくりコンテスト
 - 旋盤作業部門 優良賞 玉手 凌太
 - 県アンサンブルコンテスト
 - 仙南地区大会 管打楽器七重奏 銅賞
 - 日本童謡の書展
 - 準大賞 大河内えり



新役員挨拶

平成23年8月7日、本会総会において、佐藤吉市会長はじめ副会長3名、監事3名が選出・承認されました。このたび就任された副会長・監事の6名の方にご挨拶いただきます。



副会長 小形 とき子
(生活20回・角田支部)

今回の役員改選にあたり、副会長に選任されお引き受けいただきました。私は、昭和44年3月生活科第20回を卒業しました。

学校事務職員採用試験を受け、母校で事務職員として採用になりました。生徒から職員になった当時は戸惑いましたが、恩師に囲まれて指導していただいたのでラッキーなことだったと今でも思っています。

その後、仙台・仙南地区の高等学校等数校の学校事務に関わり、平成20年度より3年間母校の事務室長として任命され定年を迎えました。

在学中の思い出といえば、3年生時の根っ子入での年2回、1週間の宿泊農場当番です。1

班6〜7名で朝起きて鶏と豚にえさをやり、卵の収穫をしてから登校し、授業が終われば根っ子入に帰って、また豚と鶏の世話をして自分たちの食事を作ったの合宿でした。

昨年、還暦記念のクラス会を開催しましたが、思い出話はやはりこの宿泊農場当番のことが多かったように思います。当時の話を聞くのは、今でも新鮮です。クラスメイトとは会えば姉妹のように心が打ち解けてしま

うのは、3年間同じクラスだったからでしょうか。とにかく楽しく、ステキな仲間です。

前年90周年を迎えた歴史ある母校の同窓会が、更に充実した会になるよう微力ながら協力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



副会長 菊地 清明
(農業21回・館矢間支部)

今回の総会役員改選で副会長の重責を拝命されました。その重責に身が引き締まる思いです。よろしくお願い申し上げます。私は本校農業科第21回を卒業しました。

同窓会副会長職域に任務の重大さを痛感するものでありますが、幸い人格、見識とも卓越されている佐藤吉市新会長のもとで、一生懸命努めさせていただきます。

きます。

私の職場の「コンプライアンス」から出直し。社員一人一人が心の奥底にコンプライアンス無くしては、仕事無し会社無しと言う原理原則を今一度徹底する。外れる者は会社として排除することに決まらな

い。知恵と勇気を振り絞り新たな社会人に育て。」が我が社の社訓にして時代に挑戦しています。

現在、館矢間支部長として、地域在住の会員相互の連携を深め、支部の充実を図り、会の活性化に繋げたいと思っております。

会員皆様には母校並びに同窓会に対して、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



副会長 湯村 勇
(農業26回・角田支部)

同窓会の皆さん、こんにちは。今回の役員改選に当たり副会長に選任されました。よろしくお願い申し上げます。

本校を卒業して早37年が過ぎましたが、役員就任に際し、改めて同窓会のご隆盛に頑張りたいと意欲を燃やしておるところでございます。

さて、本校の今までの変遷を辿ってみますと、子弟教育のために大きな役割を果たし、地域

の発展に尽くした力は偉大であります。

私が在学中の校舎や授業内容は時代が時代だけに満足はしたものの、今と比較すると、必ずしも十分なものではありませんでした。それが今や白亜の殿堂たる校舎に変わり、教科もグローバルな視点に立った教育になり、頼もしい限りであります。時折、本校の側を通るときがありますが、卒業後、貴重とされる教育実習は素晴らしい教員に恵まれ、伸び伸びと学力や知識を習得している姿を目の当たりにする時、私の心は温かくなるのです。普通高校では経験できない利点と思えます。

しかし、世は正に「日進月歩」、進む時代に目を向けながら、私たち役員は子弟の教育や地域のために、心を一つにして頑張っ

て参りましょう。

皆様のご協力をいただいで、一生懸命努めさせていただきます。



監事 玉手 安博
(農業18回・藤尾支部)

新年明けましておめでとうございます。昨年3月11日

に発生した東日本大震災で被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、福島第一原発事故で放射能汚染が

社会的な問題に発展しており、国の責任においても早急に除染作業に取り組んでいただき、安心して生活が出来るよう強く望んでいる次第です。今年こそは自然災害のない年である事を願ってやみません。今回で退任される同窓会会長佐藤一馬様には、今日まで会長としてご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。今後とも健康に留意され、我々後輩にご指導下さいます様お願い致します。

最近、生活習慣病で健康を害する人たちが年々多くなっております。癌・心臓病・脳疾患など、私たちは食物を食べて生命を維持しております。残念な事に現在の農作物は、化学肥料・除草剤・農薬を使用しており、土壌の劣化をまねき、栄養素の少ない農産物を食べているのが現状です。我が母校が農業に対して最も大事な生命維持の役割を見つめ直し、本腰を入れて化学肥料や除草剤、農薬など使用しない農産物の生産を、授業の一環として取り組んでいただきたいと切に願うものです。

日本を担うこれからの子供たちのためにも、「食」は最も大事な事と考えて、私も日々実践しておる次第です。最近の宇宙飛行士古川聡さんの話に、「これからは知恵を出し、工夫を致し、汗をかくて頑張る所に進歩があり、更に努力すれば進化が生まれてきます。」とあります。今

同窓会の情報はホームページで!



平成22年12月より本会のホームページを開設しています。内容は会長あいさつ・役員名簿・会則をはじめ、思い出広場としてフォトアルバムが掲載されているほか、母校の校歌や応援歌を聞くこともできます。また、事務局からのお知らせとして、

総会や各支部の情報を随時掲載しています。会員の皆様にはぜひアクセスしていただき皆様の交流に活用していただければと考えております。

本会ホームページには「伊具高校同窓会」で検索していただくか、下のURLを利用してアクセスしてください。

URL <http://www.igukou.com/>

までどおりでは何も産まれてきません。時代に添った物の考え方を若い人はもちろんの事、年を重ねた私なども尚更身につけなければならぬと肝に銘じております。年齢にかかわらず、常に「一歩前進」の心を持ち、人生を歩んでいきたいと思っております。



監事 池田 幹夫 (農業19回・丸森支部)

私事、昨年7月の総会において、監事に選出されました。未熟ではございますが、伝統ある母校同窓会のさらなる発展のため、努力して参りたいと思っております。今回の役員改選で退任された、佐藤一馬前会長をはじめ旧

役員の方々には、心から感謝と敬意を申し上げます。

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

さて、皆様ご承知の通り、昨年3月には東日本大震災がございました。また、福島原発事故による放射能被害の拡大が懸念されているところであります。これまで誰も経験したことのない大災害に、今まで当たり前のように過ごして来た日々の生活が、実はどんなに有難く、幸せなことであったか、子供も大人も実感した1年であったと思えます。

新年を迎え、本格的復興を祈ると共に、自分の立場で、自分の出来ることをしていきたいと思っております。

最後に、会員皆様のご健勝と母校の発展とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶いたします。



監事 林 力男 (農業25回・大内支部)

卒業年度は、昭和49年、いわゆるオイルショックという

ことで大変混乱した社会情勢でしたが、なぜかしら「神田川」、「ルビーの指輪」等、当時流行した歌が懐かしく思い出されます。考えてみれば、卒業から40年近くの月日が流れた中で、高校生活はわずか3年間です。私の年齢からすれば、その比率は益々小さくなっていくわ

けですが、不思議なことに高校での3年間は、単に時間では計れない懐かしい思い出一杯の充実した3年間だったようであり、高校時代は生徒会長を務め、長髪やバイク通学といった大きな問題を抱え、多くの仲間と共に取り組んだこと、同時に目立ち過ぎたのでしよう。怖い先輩からは大きな試練を賜り、本当に無我夢中の3年間でした。あの時の試練はその後の人生に大きく影響し、今日の自分に良い意味で反映されているようであります。ですから、高校生活の3年間は私にとってかけがえない時間だったと振り返っております。更には平成16年、縁あってPTA会長を仰せつかり関わりを持たせていただきました。印象に残っている事業は、夜回り先生こと水谷修先生の講演会開催、PTA会則の大幅な改正等々ありますが、やはり限られた時間の中で、一歩踏み込んだ事業展開は躊躇してしまい、「継続は力なり」に甘んじ、先生方には大変お世話になります。あらためて感謝致しております。今また、こうして同窓会の幹事として選任いただき、伊具高等学校には本当に縁があるようです。実に微力ではありますが、恩返しのためにも務めさせていただきますので皆様方のご指導をよろしくお願いいたします。

90年誌「新たな世紀を迎えて」

母校創立90周年記念事業の1つとして発行された90年誌は、会員の皆様からのご寄稿文が読み応えがあると大変好評です。70年誌「風雪に耐えて七十年」とあわせてお読みください。購入を希望される方は事務局(電話 0224-72-2020)鈴木までお問い合わせください。



なお、前会長の佐藤一馬様は総会参加者の総意により、顧問に推戴されました。佐藤様には今後もこれまでの会長としてのご経験をもとに、本会の運営にあたっていろいろとご指導いただけるものと思っております。

今回、ご退任される会長の佐藤一馬様、副会長の大槻英雄様、小野正彦様、牛澤榮様には、10年にわたってその職務を遂行され、90周年の大事業を成し遂げただけでなく、本会にありがとうございました。ご健康に留意され、今後も暖かく本会を見守っていただきますようお願い致します。

(事務局 鈴木英晴)

会員の声

継続は力なり

齋藤 慶 昭

(農業21回・小斎支部)

私は、昭和45年に卒業し、縁があつて4月から伊具高校に勤め始めました。当時は水稲・野菜・草花・畜産・養蚕部門があり、約5年交代で実習の指導をしていました。思い出深いのは、シクラメン栽培期間中、灌水に通つたことや、養豚・養鶏を担当していた根っ子入農場で、大雪の降る夜、豚の分娩のため一人宿泊したこと、また、沢水を利用していたため大雨の都度沢に入り水を引き直したことです。時代の流れで農業科が産業技術科に学科転換した時に、機械担当になりました。農業機械から100分の1ミリ単位の危険な工作機械操作・指導に大変戸惑いましたが、皆様のご協力により、平成23年3月の退職まで41年という長い間、無事勤務することができ大変感謝しています。長い間継続することは、「経験」が蓄積され、それが自身の何物にも変えられない「力」になります。また、農業だけではなく、溶接・旋盤・NC旋盤・MC・CAD等を学ぶことができました。心に残っているのは、電気機械部を担当し、高校ロボット競技大会に参加できたことです。毎年出題される課題に沿つたロボットのアイデアを考え製作



し、3分間を競う競技です。完成するまで大変ですが、4回

全国大会に出場することができました。

退職後は、稲作をしています。が、昨年は震災による作付の遅れと、台風15号の影響がありました。何とか平年作になりました。あまり時間と採算にとらわれず、マイペースで悠々自適にのんびり米を作っています。と思っています。

最後になりましたが、伊具高校の限らない発展をお祈り申し上げます。

回想

庄司 一郎

(農業22回・筆甫支部)

農家の後継者としての意志を持ち、夢を抱きながら農業科に入學し、多くを学び卒業してから、早いもので還暦を迎えようとしている。「光陰矢の如し」とはこのことかと、つくづく思っているところです。

実習した根っ子入農場を通るとき、当時のことが最近のよう

ががんばろう。「博伸郷友会」。

入部して良かった

吹奏楽部

中村 輝 幸

(農業30回・大内支部)

私は約30年になるかな？伊具高校に入學しました。期待もあり、当然不安もあったと思います。部活は先輩から弓道部の話を聞いていたので、興味があり入ろうと思つていましたが、中学の時は吹奏楽部に所属しており、伊具吹奏楽部の部室は1年の教室の近くにあり、下校時毎日のように声をかけられ、入る気はなかつたのですが、ある先輩との出会いがあり入部しました。高校の吹奏楽は中学の時とは違い、何かやる気が出るやりのある部活でした。それは目標があつたからなんです。吹奏楽コンクール大会があり、自由曲・課題曲の2曲があり、そのために毎日遅くまで練習していました。その甲斐あつて県大会では金賞を取ることが出来、伊具高も県大会では毎年金賞を取る常連校に数年なつていたと聞いていました。

それから20数年、息子が吹奏楽部に入り、20数年ぶりに県大会に出場と聞き、それをきっかけにOBと合同で演奏しました。うと声がかかり、私は高校卒業と共に楽器に触れる機会がなく、楽譜も読めない状況でしたが、高校の時の仲間と連絡を取ると、「俺も出るからやりましょ



う。昔取ったなんとかだ。と言われ、出ることになりました。1回

で終わるのかと思いきや7年も続けてやり、また、その間に高校生も卒業しOB・OGとなり、演奏会に参加し高校生より多くなつていました。合同演奏会を機にバンドを作ろうということになり、卒業生でもある森匡那さんをリーダーとし、丸森ウィンドサークルを結成し、毎週日曜日夜7時から丸森のまちづくりセンターで練習をやり、町内での行事等に参加し演奏をさせて頂いております。

最後になりますが、昨年の震災で多くの人が犠牲になり精神的にも立ち直れない状況だつたと思います。そんな多くの人々を、いろいろな人たちが協力し助け合い、生きる力を貰つたと思います。その中に音楽で励まされた人たちも多いと思います。そんなバンドを目標に練習し活動していきたいと思っております。メンバー募集しております。

伊具高校時代の 想い出

八島 哲郎

(商業15回・耕野支部)

昭和52年4月に商業科に入學した私。高校生活で一番の思い出と言えはやはり部活動です。卓球部に入り、結城昇先生(前校長先生)と小野紀一先生のお2人に3年間熱心かつ厳しくご指導いただきました。

高校から卓球を始めたのは私だけという状況で、トレーニングや練習について行くのはとてもきつかったのを覚えています。当時部活の休みもほとんど無く、練習時間が一番長かったのが卓球部でした。

部活動の中で特に記憶に残っているのが二つあります。一つは合宿です。トレーニングと練習に明け暮れ、卓球漬けの毎日。体力的に半日でもきつい練習が、丸一日です。しかし、その中でも先輩後輩も交えての会話や、夜のレクリエーションはほっとする時間でした。もう一つは、部活を引退した3年生の秋、先輩の新人戦の応援のために学校を休んだ事です。当時3年生の休みは許可されなかったものの、どうしても先輩の試合が心配になり応援に行きました。同級生に声をかけ、開催地の岩沼で竹駒さんに必勝のお参りもしました。結果、男女とも団体戦3位で県大会に進出を決めました。

卓球部の顧問だった結城先生



が角 田高 校の 教頭 先生 とい う情 報が あり、 平成 19年 27

年ぶりに同級生の部員が集まりました。みんな当時の先生の年齢を遥かに超えましたが、顔を合わせた瞬間にラケットを握っていたあの頃にタイムスリップできました。

高校時代に汗をかき、必死で小さな白球を追いかけた事。それは今でも私の心の支えとなり、「負けてなるか!」と自分を奮い立たせる原動力になっていました。卒業後30年以上過ぎた今でも恩師や同窓生の方々にはお世話になり、縁を感じ感謝しています。

最後に丸森町耕野地区で「いなか道の駅 やしまや」を経営しています。お近くにおいでの際は是非おいで下さいませ。最後に、母校の会報に寄稿でき嬉しく思います。お声がけありがとうございます。ございました。

日々勉強

夙戸 里美

(生技2回・館矢間支部)

観光の仕事に就いて早2年が

経ちました。丸森に生まれ、育ちながら、町の事を何も知らなかったのだと気づかされた2年間でした。

筆甫や耕野から通っていたクラスメイトはいたのに、学校からどのくらい離れているのか、どんな土地なのか、どんな特産や風景があるのか、何も知りませんでした。でもそれは、その当時聞いてみたところで聞かれた方も見当がつかなかったかも知れません。

あの頃は情報も物の量も多い都会に強い憧れを持ち、「仙台へ遊びに行つた」と聞くと羨ましかったのを覚えています。私は美術部だったので、仙台の画材屋へ行った時は絵の具・紙・筆が所狭しと並んでいて、選ぶことが出来る事に心が弾んだものでした。若い頃は誰もがそんなのではないのでしょうか。若い頃から地元の良いものに気が付いている人がいたなら、それはとても素晴らしいことだと思ふのです。

今、学校では町内のお店や観光施設で職場体験をしたり、見学も行ってると伺っています。若いうちから自主的に地元の良さを学べというのは難しいもの。そのような機会に少しでも地元の良さに触れる事が出来れば、いつか何か芽生えるかもしれないと期待しています。

私も今、遅ればせながら勉強中です。メジャーな観光スポットは回れましたが、なかなか行けない場所もあります。昨年は大内の不動滝へ行く機会があり

ました。全面凍結した姿を目にした時の感動は、今も忘れる事ができません。場所・歴史・食材・料理、分からないことは全部地元のお父ちゃん・お母ちゃんのお知恵をお借りしています。今「私の先生」は大勢いらつしゃいます。その方々の力をお借りしてよりよい丸森町のご案内が出来るように努めて参りたいと思っています。

※ 夙戸さんは丸森町観光物産協会にお勤めです。

クラス会だよ

笑顔輝くクラス会

岸 浪 綾 香

(総合6回・藤尾支部)

平成23年11月26日に角田市の和風ダイニング善にて、恩師鈴木英晴先生を開んで3年4組クラス会を開きました。

卒業して5年程しか経っていませんが、以前から友人と秋頃にクラス会を開こうと話をしていました。しかし、昨年は震災があり、そんな状況の中で開催をするべきか悩みましたが、みんなに楽しんで笑顔になつてもらいたいという思いが強く、開催することを決定しました。

クラス会当日、続々と集まり、次第に賑やかになっていきました。たった5年ですが、とても懐かしく、あの頃の3年4組に戻つたようでした。今はみんなそれぞれ的人生を歩んでい

て、地元を離れ遠くで仕事を頑張っている人、結婚し子育てに専念している人、みんな様々です。このクラスは高校の時から和気藹々楽しいクラスでした。しかし、その頃は照れ臭さもありません。なかなか話すことの出来なかつた人とも今になれば楽しく話すことが出来ました。



や残念 そうな 声が聞 こえて きまし た。豪華景品の内容は、たこ焼き 器・石

けんセット・マック券・ラーメンセット・エケコ人形で、残念賞はお菓子の詰め合わせです。ピング大会は大いに盛り上がり、楽しんでもらえました。楽しい時間はあつたという間に過ぎ、お別れの時間になってしまいました。みんなに「楽しかった。また開いてね。」と書いてもらったので、自分でも大満足です。このひと時がそれぞれの明日からのパワーになってもらえると嬉しいです。次回も必ず企画しますので、楽しみにして下さいね。

支部だより

大内支部活動報告

大内支部長 菅野 秀一

(定蚕5回・大内支部)

大内支部は、昭和25年頃に発足しました。前支部長の目黒慶雄さんが長年にわたり世話役として会員に呼び掛け、毎年のように総会を開催し、親交を深めてきました。

大内地区は12地区に分かれており、それぞれに世話役員が決められております。その方々に案内状の配布や総会開催のお世話をお願いして活動を続けております。



昨年の総会は、8月21日に大内町内の食堂「星の家」において開催されました。当日は、佐藤一馬前会長をはじめ、学校から2名の先生方にご出席頂き、総勢30名の参加となりました。総会では、事業経過報告の説明があり、その後、規約の

改正と役員改選についての協議がありました。そこで、これからも支部を盛り上げていこうという意識を皆で強くしました。その後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中で、会員同士の親睦を深め合うことができました。

総会で行われた規約改正では、支部の役員が、支部長1名、副支部長3名、幹事若干名は今までと変わりはないですが、監事2名を付け加えることとなりました。監事は、今まで置いていなかったのですが、会を運営するに当たり不都合なことがあったため、新たに設置することになりました。また、今までに、総会は年1回開催することとしていましたが、随時開催することと改められました。必要に応じての開催が望まれるためです。この規約は、平成23年8月21日に一部改正となりました。

今後の総会開催は、今のところ未定であります。必要に応じて総会及び懇親会を開催する所存であります。多くの会員の皆様に参加していただき、同窓生としての絆をますます強くしていきたいと感じております。

金山支部だより

金山支部長 石田 隆

(普通7回・金山支部)

母校伊具高校は、創立90周年の記念式典を盛大に挙行し、新しいページ、来るべき百周年に向

け雄々しい歩みを進めています。

さて、金山支部は去る1月22日、地元「もり総合会館」において総会を開催しました。参加者は20名程でしたが、40代から80歳に近い方々までの参加は同窓会ならではと一人納得。来賓には菊地校長先生、鈴木・菅野両先生、佐藤同窓会会長のご出席をいただき、花を添えていただきました。

総会は阿部庶務の司会で始まり、体調をくずし欠席された一條支部長に代わり副支部長が挨拶。続いて、佐藤同窓会長、菊地校長先生から同窓会や学校の現状、後輩たちの活躍の様子、そして支部に対する激励などをいただき協議に入りました。



経過報告、会計報告が承認され、今後の活動が話し合われ、新たな会則も決定しました。最後に役員改選が行われ総会を終了しました。新役員は次の通りです。

- 支部長 石田 隆(普通科7回)
- 副支部長 佐藤伸子(普通科11回)
- 庶務 佐藤 寛(商業科3回)
- 会計 斎藤欣一(普通科10回)
- 宮本義廣(農業科18回)

続いての懇親会は何年か振りでしたが、あの雁歌の里で青春を謳歌した者同士、和氣藹藹。土手の桜並木、平屋の木造校舎、駅伝大会、文化祭と話題は尽きません。しかし、いつも聞かされた根っ子入実習地の開墾の話は出ず仕舞い。それを知る人がいなくなってきたのです。世代は容赦なく移っていく、正に悠久不変の真理とは云え、寂しい気も致しました。次回はより多くの参加を願いながら解散となりました。

角田支部総会

毎年行われている角田支部総会は平成23年2月26日土曜日角田市内J Aふれあいセンター虹において25名の参加で盛大に行われました。学校側からも結城校長をはじめ7名が参加しました。

角田支部は支部総会前の1月29日に役員会を開催し準備が行われてきているだけあって、多くの会員に呼び掛け、毎年必ず参加される方も少なくありません。年に一度同窓生が集い、和やかな雰囲気の中で総会が始まりました。開会と同時に全員で校歌を斉唱するのも角田支部ならではのものです。卒業年度は違っても心一つにすることが出来ました。今年度の総会では創立90周年記念事業に向けての支部の取り



組みが報告されました。9月4日と22日の2回にわたって役員会が開催され、記念式典への

参加について話し合われたとのこと。それゆえ角田支部からは記念式典に21名、祝賀会に8名という多くの会員の方々に参加していただき90周年を盛り上げて頂きました。総会後には恒例の記念写真の撮影があり、懇親会ではおいしい料理を囲みながら、母校での懐かしい思い出話が尽きることなく続きました。

編集後記

(事務局 鈴木英晴記)

昨年3月の震災では会員の皆様の中にも犠牲となった方がおられました。また、多くの方が被災されました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、一日も早く普段の生活に戻られますようお祈りするばかりです。

同窓会事務局

鈴木英晴・菅野 厚